

消防団だより

第2号
発行
富士市消防団
富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545) 51-0123
内線 (3333)
FAX (0545) 53-4633

"自分たちの街は自分たちで守る"

魅力ある消防団づくり

消防副団長 宮崎 武



「消防団」市民の目にはどのような感覚で受け止められ、また、どのような印象づけがされているのか。私達の消防団運営において、住民意識を無視することは出来ない。言う迄もなく、消防団員は、各自の職業に従事し乍ら地域防災のため地域に密着した災害予防活動、災害防ぎよ活動に積極的に従事しており、団員各位もそれを自負しているところがある。

特に、全国的にも消防団員の高齢化と、若い団員の確保が問題となっており、その打開策とし、魅力ある消防団へのイメージチェンジを図り更に市民の深い信頼とその負託に因應するため団員各位が誠意努力し、地域住民との接点を拡大すると共に消防団活動への理解と協力を求めて行かねばならない。

ろでもある。しかし、旧態依然とした体質の改善が図られない限り市民の信頼はもとより、団員相互の連帯感が薄らぐことが危惧されている。この様な現況を踏え消防団活性化への具体的推進が望まれるところである。

お父さん地域のために頑張つて

第十三分団 部長 長尾 文彦
次男 長尾 彰



僕の父は分団員です。僕が生まれる前から消防団に入っています。分団員の家族として、今まで色々苦労したり、心配になったりしました。でも、僕がまだ3・4才の頃の夜中の出来事で、父が飛び起きて

詰所まで走って行く姿を見た時は、幼な心に只「カッコイイ」としか映らなく、何の苦労も知りませんでした。僕はサイレンの音や無線広報の音が恐かっただけで、父がどこへ何をしに行くのかさえ知らなくて、消防車に乗って行く父がとても格好よく見えたのでした。中学生になって、やっと苦労がわ



市長賞

平成四年富士市消防出初式 写真コンクール表彰者

- ▽市長賞 草間 巖(五貫島)
- ▽議長賞 濱野貞之(富士岡)
- ▽消防長賞 渡辺喜久夫(今宮)
- ▽消防団長賞 鈴木 巖(中島)
- ▽防火協会会長賞 平野彰一(柚木)

- ▽奨励賞 佐野友弘(本市場)
- 長田繁春(国久保) 稲葉敏夫
- (伝法) 川村英衣知(広見)
- 島田トシエ(松岡)

平成三年度防火作文 コンクール表彰者

- ▽市長賞 須津小四年 井出祐輔
- 吉原北中二年 渡邊千尋
- ▽議長賞 岩松北小六年 鈴木洋子
- 田子浦中二年 横山久美
- ▽教育長賞 伝法小六年 伊藤有美
- 須津中二年 片岡徳子
- ▽消防長賞 原田小五年 熊倉光子
- 元吉原中二年 中村知子
- ▽消防団長賞
- 田子浦小四年 渡辺境子
- 大淵中二年 戸島 崇
- ▽防火協会会長賞
- 鷹岡小五年 白川いづみ
- 吉永第二小六年 木又あゆみ
- 富士南中二年 西谷 明子

かったような気がしました。夏の暑い盛りに、仕事からクタクタになって帰って来て、食事もなくに取らず、いそいそと訓練に向かい、汗だくになって帰って来る父を見ると「何故やめないんだらう? 辛かったらよせばいいのに」と思った事があります。もう一つ大変だと思ったのは、冬の夜警です。男が四人だけ詰所のコタツに入って、決まった時間に見廻りに行く。消防団員が居ない家族は「本当に夜中に見廻りをしているのか?」とか、「見廻りを見た事がなければ」などと思うでしょうが、普通

の人は見なくて当たり前です。なぜならば、皆が寝静まった夜中にそれぞれの地域の安全を確認しているからです。又、夜警で父が出掛けた時は、安心して眠れません。こんなに大変なのに、父は分団員をやめません。何故やめないのかは僕にはわかりません。だけど、父は体を張って地域の安全に務めています。息子として照れくさいけど、父が苦労するなら僕も少し位の苦労は我慢します。くれぐれも身体に気を付けて、頑張つてほしいと思います。

なつかしの一枚

前第十七分団 分団長 長田 泰幸



書庫を整理していたら、外国製の「ノーザン」の消防車と十人の田子浦村消防団員が写った写真を発見した。この団員達は、制帽にハッピ姿で衿には任務分担の「警備」「救護班」「消防手」等の文字が入っており、昔を偲ぶ大変貴重なものである。早速、近所の長老に見て頂いたところ、大正十年頃のものではないか、という事であった。写真の消防車は大変綺麗に磨かれ手入れが行き届いている。その頃としては最高で自慢の消防車であったであろう。

出るからには優勝しよう

第二分団 班長 山田 操



「出場するからには優勝しよう。二位でも三位でもダメだ。絶対に優勝しよう。」この大村指揮者の一言によって、我ら二分団の小型ポンプ操法要員一丸となって目標に向かう気概と団結が更に強固となった。一番員の佐野君、二番員の熱川君、三番員の私、要員に意欲が欠乏したから優勝という目標は絶対に達成出来ない。訓練大会が終了する迄、この優勝という目標を持ち続けようと誓い合った。

そして、全員が一方面隊の小型ポンプ操法指導員であり、我々二分団の仲間でもある後藤部長に優勝と言う美酒を味わってもらいたい思いが日増しに強まっていった。五月より訓練を開始した。訓練は繰り返し、繰り返し行ない訓練終了後は必ずミーティングを実施し、その日の反省・問題点・疑問点等々は、その都度解決させ次回の訓練時には同じ間違いを絶対しない。一人が間違ふ事により、他の三人に迷惑が掛かり訓練のペースが遅れては困る。又、一人が訓練に欠席しても完全なる訓練は実施出来ない。

又、団員一人ひとりの表情には「火事は任せておけ！」と言っている様な雰囲気を感じられる。バックの風景には、富士川橋が写っており、当時を偲ばせている。

この様な写真は、めったに見られないものであり、分団の宝として大切に保存しようと思う。

消防団は、地域住民の生命や、財産を守る奉仕団体であるの言うまでも無いが、活動に携わる団員が少ない事が懸念される。

若者達の社会奉仕活動参加の場として消防団を活用し、地域ぐるみで活性化を図り、一人でも多くの人が、消防活動に参加することを希望します。

訓練が進むにつれて、全員に思いやりと協調、より強固なチームワークが完成しつつあった。訓練は日増しにハードになって行ったが、そんな時の分団員全員のバックアップが一服の清涼剤となった事を強く感じた。

大会当日を迎えた。人事を尽くして天命を待つ心境でもあった大会も無事終了、出場出来たと言う満足感が一杯であった。

審査委員長の結果発表で「優勝第二分団」との一言は、全員一生忘れない程強く脳裏に焼き付いたものだ。強固なる意志を持ち物事にぶつかれば、必ず目標は達成されるという教訓を全員が身をもって体験したからだ。

「優勝」は分団員全員の力の結集であり、全員の荣誉でもある。第二分団万才。

県大会に出場して

第二十三分団 分団長 西村 学



「県大会出場」この荣誉を果たすために、どれだけ時間を練習に費やした事だろう。いざ本番で草薙競技場の中に入ると、観衆及び周囲の広大さに自分達の部隊が呑み込まれてしまった感じがした。初出場の為細かい動作、号令等を指導員の方々に教えて頂き、頭の中では理解したつもりでいました。

けれど、実際に草薙競技場に入り本番となると、自分の体が練習の時の様に動かず、三分の一程過ぎてから、やっと周囲も見え自分を取り戻した。

せた様に思えた。多分、他のメンバーも自分同様ではなかったろうか。緊張の中でも失敗もせず、普段通りの動きをする為には訓練を積み重ね、身体に覚え込ませなければならぬ。それが実際の火災現場でも役立つのだと思う。

普段からの練習が大切であると言う事は自覚しているが、各個人が仕事をもち、消防団活動もする中で、規律訓練は三十名の隊員が揃って練習する事は難しく、これからの練習方法のありかたを考える必要があるのではないだろうか。とにもかくも、色々な事を思い、考え、経験した大会であった。

地域で期待される第十六分団

第十六分団 団員 望月 貞男



近年、社会環境の変化に伴ない災害の様相が複雑かつ多様化している。この様な状況下に於て、災害は発生し消防団に寄せる期待は確実に増大していると思われまます。このため、あらゆる災害に迅速かつ適確に対処する為、新しい知識を習得し、又、消防団活動基本である礼式・操法の

訓練を実施しています。練習には、要員をはじめ全員が参加しています。地域においては各部落の自主防災の人達からの要請により、小型ポンプの取扱い指導も行なっています。又、区民体育祭にも分団として参加し放水訓練を実施、消防のヒーローをしています。

今後更に地域住民に期待される分団を推進するにあたり、団員全員が自覚し、一致団結して物事に対処していかなければと思うこの頃です。

VICTORY



第十三分団 団員 小早川 光

平成元年 夏
ホームベースは、強い日射しの中で、ゆらゆら揺れていた。マウンドに立つVは、そつと唇をなめた。九回裏、ツアアウト。ショートのエラーとフォアボールで出したランナーが一塁と二塁に居る。二点取られると同点だ。

土産が出来た……
Tはライトの守備から逃げ出したい気持ちだった。自分のところにボールがない様、祈った……
レフトのOは「よし、俺のところに飛んで来い。絶対に取ってやる……」
Rがキャッチャーミットを構えた。カーン。青空の中へ白球が伸びて行く。
センターのY主将が背走する。振り向く。ジャーンプ。
Yが信じられない面持ちで、グラブの中のウニングボールを眺めた時、ウアーと言う歓声がグラウンドに響き渡った。
V・I・C・T・O・R・Y

今日は五試合フルに投げたが、それもこのバッターを打ち取れば優勝だ。第一回戦の最後の場面が、ふと頭をよぎる。ショートを守るIのサヨナラヒットで我々は勝ち上ってきたのだ。明日は我が身である。ベンチに陣取るC監督は……良くここまで来た。消防団二十五年のいい

(平成元年七月二十三日 第十八回 富士市消防団ソフトボール大会に優勝して)

なんとなく入団して

第五分団 団員 池田 高明



私が消防団員になって、三年半が経ちました。何も分からないまま、誘われ「はい」と返事をして入団しました。

入団した年に、訓練大会の小型ポンプ操法要員に選ばれたのですが、なんとなく成り行きで選手になったという感じでした。年も二十七才でしたので、けっこうしんどい思いをしました。又、次の年には本部のラッパ隊員として分団より選ばれ、今日まで続けております。

ただなんとなく入団して、なんとなく消防団活動の楽しさを知り、何か廻りの思惑にはまってしまう様な感じがありますが、自分達の行動が多少なりとも地域の防災、防火に役立っていると思うと、私の価値も満更でもないな、と自負しております。

今後は、もっと若い人達に消防団活動の良さと価値を知ってもらい、我ら分団が今以上の活気を持つよう少しでも努力して行きたいと思っております。
私を分団員として誘ってくれた方々、又、分団の同僚、家族の協力には大変感謝しております。

初めて訓練大会に参加して

第十一分団 団員 石川 幸浩



長かったポンプ車操法訓練が終了。思い返せば、練習初日に私が基本動作も出来ず操法手順も把握していなかった為、「十一分団はそれで大会に出られるのか」と言われてしまった。三番員として指名された私は、練習から帰る消防車の中で落ち込んで言葉もろくに出来ませんでした。

大会に近づくと、入賞したいという欲が強まって来ました。大会当日は緊張する間もなく、あつと言つ間に終ってしまつた。成績は四位(三位以下の発表は無い)。
私は訓練大会に出場するにあたり訓練を通して人間性を磨かれ、消防団に馴染んで来た様な気がします。これも、共に汗を流した仲間が居た事、毎回の様に応援に駆け付け叱咤激励してくれた良い先輩に恵まれた事、又、十一分団全員のバックアップがあったからこそであると思えます。ありがとうございました。

消防査閲大会に出場して

第十分団 団員 渡辺 孝



昨年八月二十二日、県査閲大会に富士支部代表として出場しましたが、三年前の富士市の大会では、我十分団の小型ポンプ操法チームは全員が未経験で指導員に一人から教えてもらい、又、各要員の研究心からか他分

団の練習を見学したりした結果、漸くホースも流れる様になりました。その頃は誰一人として県大会に出場出来るとは思いませんでした。
思えば、昨年の支部大会及び県大会に向けての訓練が一番苦しく、辛い思いをした時でした。雨による練習日程の変更、各要員の残業等による日程調整、又、暑さによる体力の消耗など色々な事が精神的重圧となり、訓練も思い通りに行かず、同じ様なミスは何度も繰り返してしまいました。

そんな時に十分団員や先輩に励まされ、段々と調子も上がり、ペースもつかんで来ました。又、初めての県大会に向けて、訓練に熱が入って来た中で、市主催の家族同伴激励壮行会及び、地元元吉原地区町内会による壮行会も開いてもらい、更に訓練にも熱が入り大会に臨みました。
訓練の成果が十二分に発揮出来たと思つたが、今一歩で入賞できず残念でした。しかしながら、持ち前のチームワークと各要員のおごり無く初心を忘れず三年間訓練に励んだ事が、今後の消防団活動に大きく左右する事を信じ筆を置きます。

なお、県大会出場までの間、指導員並びに消防関係者の方々に大変御尽力を頂きました事を心からお礼を申し上げます。



団員の結婚式で消防節を

時代の流れと共に災害は益々多様化し、様々の火災が発生しております。この様な状況下で地域に密着し、組織的に動員体勢をもつ消防団の活躍が大いに期待されています。

この期待にこたえるべく、各分団共、その原動力となる若い人の力を求めています。我々第四分団も全員で若い人に入団の働き掛けをしました。

その結果、平成二年から三年にかけて地元での協力も得て、二十代の若者十名の入団をみる事が出来ました。

そして更に昨年は分団で三名の結婚者があり、この結婚式に団員多数が招待されました。この席で消防節

若い力を消防団に

第四分団 分団長 渡辺吉彦

平成三年度富士市消防団訓練礼式並びに消防操法大会に於いて、我々第二方面隊が訓練礼式の部で完璧とは行かないまでも優勝する事が出来ました。礼式は五ヶ分団の混成となつている事や、仕事の関係等により決められた練習日に全員参加出来る日も少なく、大会を前にして果たして大丈夫かと心配しました。

消防訓練礼式に出場して

第七分団

班長 竹内雅貴



私自身、左翼分隊長として三回目の出場となりましたが、何度出ても大会当日は緊張の連続でありました。又、平成三年度最後の目玉行事である出初式での模範演技も無事終了し、目指すは今年七月の富士支部大会となります。出場するからには、富士市の代表として、恥かしくない演技を皆の前で披露したく、三十人全員の気持ちと動作が一つとなる様、これからの訓練に励みたいと思っております。

指導員としての所感

第十五分団 部長 滝下礼而



礼式の目的の一節に「礼節を明らかにして、規律を正し、隊員の品位の向上を図る云々」とあるとおり、礼に始まり礼に終る如く要求されており、これには訓練により基礎を作り、厳正なる規律を身につけなければこの目的に対応する事はなかなか容易ではないと思われ、いわゆる一に訓練、二に訓練である。

私自身、消防団に入団以来卒先して訓練に参加し、礼節をまがりなりにも理解出来得ても、基礎を作る為の各個訓練を始め、分隊・小隊訓練隊形変換等、指揮者の発声する様々な号令を理解するには、やはり時間を必要としました。

指導員として、早八年を経過しようとしていますが、当初は隊員に如何に対応すべきか、如何に指導すべきか、思案の挙句、先輩指導員の一挙手一投足を観察し、それらを参考を披露し結婚式に花を添えさせてもらいました。第四分団にとって、本当に思い出深い年となりました。

ひとえに団員が一致団結して物事に対処出来たと自負しております。

今後一層若い団員の育成と、消防技術の練磨に努め、地域住民の期待と信頼にこたえて参りたいと思っております。

消防団の主要行事

- ▽分団長行政視察研修 六月十七日
- ▽庶務・機関員・新入団員研修 六月中旬
- ▽富士支部査閲大会 七月五日
- ▽ソフトボール大会 七月十九日
- ▽消防団員特別健康診断 八月中旬
- ▽総合防災訓練 九月一日
- ▽市訓練大会 十月四日
- ▽秋季火災予防運動 十一月九日、十五日
- ▽消防まつり 十一月十五日
- ▽静岡県消防大会 十一月十九日 竜洋町
- ▽火災期特別警備 十二月二十日
- ▽春季火災予防運動 平成五年二月二十八日
- 平成五年三月一日、三月七日

にするしかない結論を出しました。しかし、最近では五里霧中のうちにも、僅かずつではあるが指導員としての心得を感じ取る事が出来たと自負しつつ、期待に添えるような指導員としての責務を全うするにはまだ努力不足だと痛感しております。

原稿募集

消防団広報紙編集委員会では次回の原稿を募集しています

○枚数 四百字詰原稿用紙一枚程度

○問合せ (消防団広報紙編集委員会)

又は、消防本部管理課

○締切り 八月末日

おもしろ科学

「火事場の馬鹿力」は

どうして出る？

普通「力を出せ」と筋肉に命令を出すのは運動神経ですが、急場になると交感神経が無意識のうちに活動します。交感神経は、人の意志とは無関係に生体維持のために動くものです。

急場で「生きるために、もっと力を出せ」と、運動方針に指令これが馬鹿力となるのです。

通常、人が持ち上げられる重量は、自分の体重とほぼ同じ位までですが、交感神経の指令が加わった場合、これが一挙に二倍となるそうです。

団員募集

今、若い人の力を消防団は求めています。

消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。